



# ユニセフボランティア講座 参加報告 unicef

## ルワンダから学ぶ大切なもの ～命・平和・教育～

日時：7月29日(土)10:30～12:30  
 場所：アイーナ6階 団体活動室1  
 主催：岩手県ユニセフ協会  
 共催：(独)国際協力機構(JICA)東北支部

現在は日本国籍を取得し家族で福島に在住しているマリーさんですが、最初にルワンダから来日したのは1993年5月のこと。福島の専門学校で洋裁の研修をしながら日本語を習得し、翌94年2月に帰国しました。

しかしその直後の4月に内戦が勃発。ルワンダの自宅周辺も爆弾が落ちるなど戦闘状態となり、小さな子ども達を抱えながら生まれ故郷のコンゴ難民キャンプに身を寄せます。その後日本の知人を頼り、12月に留学生として再来日することとなりました。

再来日後はNPO法人「ルワンダの教育を考える会」を立ち上げ、現地の子ども達のために学校を設立し支援を行ってきましたが、2011年3月の東日本大震災で被災し仮設住宅住まいを余儀なくされます。

その苦境の中でも、避難所や仮設住宅でのボランティア活動を続けながら、全国を回り命の尊さや教育の大切さを訴え、またルワンダとも行き来し支援を続けているマリーさん。その活動の原点は、小学校1年生の5月に学費が払えず、泣きながら学校を追い出された級友たちを見てショックを受け、子どもが追い出されない学校を作りたいと思ったことなのだそうです。

この講座の翌日にはルワンダに向けて出発し、ルワンダ初の運動会を実現するために運動場を整備すると目を輝かせながら語られ、熱心にお話に耳を傾けていた来場の方々から大きな声援が送られました。

- 講師 / 永遠瑠(トフリ)・マリールイズさん  
 (NPO 法人 ルワンダの教育を考える会 理事長)
- ・コンゴ生まれ。ルワンダで洋裁教師をし、1993年5月青年海外協力隊カウンターパートナーとして福島文化学園で研修。
  - ・1994年2月ルワンダ帰国。4月7日内戦勃発。コンゴ難民キャンプに逃げる。
  - ・1994年12月家族で再来日し、研修生時代の友人の尽力でNPO法人を立ち上げ、ルワンダ共和国の首都キガリ市内に学校設立。命の尊さ、教育の大切さを訴える活動で全国を駆け回っている。
  - ・2011年3月東日本大震災で被災、原発事故を経験。以後避難所、仮設住宅でのボランティア活動。



ルワンダ産のコーヒーと紅茶。収益はルワンダの学校の運営費用になります。



### 【これからのイベント予定♪】

10月15日(日) 永岡地区自治振興祭にてミニフェアトレードショップを出店予定



- お祭りでは、ガーナの児童労働問題をテーマにした映画「バレンタイン一揆」が上映されます。詳細はかわら版9月号でお知らせします。

### 【お知らせ】

10月28日(土)に計画されていた、元駐日ハンガリー共和国大使ラーツ・イシュトヴァーン氏講演会&歓迎パーティは、主催者側の諸事情により中止となりました。

